



～みんなで協力して患者さんや家族の生活を支えるまちづくりを目指して～
始良地区医師会 在宅医療推進地域支援事業ニュースレター

2016年3月31日発行 vol.27 (最終号) p.1

1. 在宅医療推進県民セミナー(始良地区会場)

3月4日(金)午後1時30分より国分シビックセンター多目的ホールにおいて鹿児島県医師会と当医師会主催、南日本新聞社共催で標記セミナーを開催し、地域住民約280名の参加がありました。

県医師会常任理事(始良地区医師会理事)の林芳郎先生より「ご存知ですか?在宅医療のこと」と題し、在宅医療とは通院できなくなっても住み慣れた自宅や施設で安心して暮らせるように医師や歯科医師、薬剤師、看護師等が訪問し診察や治療を行うこと、

そしていざという時のために普段から『かかりつけ医』を持つことの重要性について、事例を挙げて住民の方々に分かりやすくお話ししました。

次に、本事業のコーディネーターより本地区の在宅医療の推進活動として、多職種が協働し地域ぐるみで在宅の患者様を支える為の連携体制を構築していることを報告致しました。

その後、善福寺の長倉伯博住職より「温もりと笑顔の中で～僧侶の関わった看取りの話～」と題しご講演頂きました。「聞く力」でストレスをぶつける「ゴミ箱」の役目となることで往く人の心を軽くし、病む人の心に寄り添うように心掛けており、在宅医療はチームで連携し、地域全体で取り組むものであり、そのチームに宗教家も入れて欲しいとのお話しでした。

2. 第2回活動報告会・在宅医療推進県民セミナー(鹿児島市会場)

3月6日(日)鹿児島県医師会館において午前10時より本事業最後の活動報告会、午後1時より「住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるために」をテーマにしたシンポジウム、午後2時20分よりおおさか往診クリニック田村学理事長による「あるがままに最期の時を」と題したセミナーが開催されました。

活動報告会では在宅医療推進地域支援事業の7実践医師会のコーディネーターより、各地区の重点的な取り組みや、今までのまとめを報告し、今後各市町が取り組む在宅医療・介護連携推進事業へ繋ぎたいことなどを発表しました。

シンポジウムでは5実践地区の代表の先生方がパネリストとしてご登壇され、本地区は佐藤昭人会長より入退院時の連携シート等を活用しての多職種連携による支援体制の構築についてお話し頂きました。国立長寿医療研究センターの三浦久幸在宅連携医療部長もオブザーバーとして参加し「鹿児島は医療・介護が連携している先進地区で、今後も持続性のある環境づくりを続けて欲しい」との講評がありました。

最後の田村学先生のご講演では、「終末期の症状や状態の変化を患者さん・ご家族によく説明し機能低下は自然なことであり、病気が急変したわけではないので、何かあったら救急車を呼ばずに、訪問看護ステーションの看護師や在宅医に連絡して下さい。」と住民の方々に話しされました。

当日は地域住民の方が約380名参加され、皆さんとても熱心に聞きながら聞いておられ、在宅医療への関心の高さを感じました。





3月9日(水)午後7時よりホテル京セラにおいて兵庫医科大学病院歯科口腔外科主任教授岸本裕充先生をお招きし、144名の参加がありました。

まず、前田終止霧島市長より「多職種連携とは鹿児島弁で『一緒にきばいもんぞ』と言います。」と開会挨拶があり、岸本先生より、「口腔ケアだけでは限界があり、オーラルマネジメントを多職種連携で行い、『Cleaning(清掃) Rehabilitation(リハビリ) Education(教育) Assessment(評価) Treatment(治療) Eat, Enjoy(食べる、楽しむ)』の頭文字をとって、食べられる口をCREATE(創造する)することが重要です。一緒にきばいもんぞ。」と最後は鹿児島弁で締めくくられました。

また、先生とお話しをした際、「三師会が協力・連携し、更に行政も一緒になり事業に取り組み、そこから多職種連携に繋がることは素晴らしい事ですね。」とのお言葉も頂きました。

4. 在宅医療スキルアップ研修会(口腔ケア・口腔リハ)を開催しました



今回は歯科医師会のご協力により、鹿児島県歯科医師会理事で福原歯科クリニック院長の福原和人先生をお招きし、3月16日(水)午後7時より始良地区歯科医師会館において標記研修会を開催し、70名の参加がありました。

脳に受ける仕事のうち40%が口腔に関連しており、口腔機能を向上させると脳が活性化し、認知症予防や転倒防止、ウイルスに対する抵抗力を高めるなど様々な効果もたらされることや、実際のケアの流れ・留意点についてお話し頂きました。また、他職種へのお願いとして口腔内を見ることを意識し、何かあったら歯科医師へ連絡してほしいとのことでした。

5. 第2回在宅医療推進連絡協議会

3月22日(火)午後7時より医師会館ホールにおいて標記連絡協議会を開催致しました。

本事業最後の推進連絡協議会となりましたので、事業の活動報告をスライドと資料をもとにご説明し、今後は市町が取り組む在宅医療・介護連携推進事業に引き継ぎ、医師会として市町をはじめ多職種の方々と連携して今後も在宅医療を推進していくことをご報告致しました。



6. 活動報告(3月)



● 事業運営委員会



○第6回事業運営委員会【ICT化】検討会

期日：平成28年3月11日(金) 19:00～

場所：始良地区医師会館 会議室

★医療・介護ネットワークシステムの検討について、ヒトココ(省電力小型探知機)やタッチフォン(かんたんテレビ電話)、キャミアップス(クラウドと連携できるデジタルノート)の説明や完全

非公開型医療介護専用SNS「メディカルケアステーション(MCS)」の使用方法を実際にデモページで確認し、多職種が連携して患者さんの情報を共有できるシステムづくりの検討をしました。

● 推進チーム連絡会

○第3回【認知症チーム】作業部会

期日：平成28年3月15日(火) 19:00～

場所：始良地区医師会館 会議室

★地域支援事業認知症初期集中支援チーム事業への支援について、各市町の事業への取り組み開始予定をお伺いし、サポート医の推薦について検討。認知症初期集中支援チームを立ち上げるにあたり、各行政でチーム検討会を発足し、医師会からも代表者を推薦することになりました。



また、保健所長よりオレンジ手帳(認知症連携パス)についてご説明頂き、認知度が低く活用があまりなされていないようなので、医療・介護連携の視点で今後、当地区独自の様式の作成についても検討していきたいとのことでした。

7. 平成27年度在宅医療・介護・福祉研修会、交流会

3月26日（土）午後2時30分より研修会を隼人農村環境改善センターで、交流会を午後5時30分より医師会館ホールにおいて開催し、127名の参加がありました。

昨年に引き続き、認知症をテーマにした研修会とグループワークを計画し、公益社団法人認知症の人と家族の会前代表の水涼子様に「認知症の人とご家族が、医療・介護関係者に望むこと」と題して講演頂きました。

関係職種へ望むこととして、「認知症への理解を深めて頂き、支える側と支えられる側に上下関係のない安心して暮らせる社会を構築して欲しい。」

「認知症だからといって何もできないと思わず、できることをさせて欲しい。」「専門職からの温かい声掛けが介護者にはとてもありがたく、安心し、ひいては患者さんの心の安定に繋がる」など、事例を交えてお話し頂きました。

また、研修会前に在宅医療推進チームチームリーダーの南九州病院地域医療連携室 前田宏氏が『入退院時の連携シート』について、作成の経緯や活用の意義を説明したことから、「今までご家族に『入院できてよかったですね。できるだけ長く入院できると安心ですね。』と申し上げておりましたが、専門職の皆様がこんなに入院時から退院に向けて一人の患者さんのことを考えて下さっているのだと知り、今までの考え方が間違っていたと気付きました。」とお話し頂きました。

その後、グループワークを地域振興局保健福祉環境部健康企画課今村恵課長の進行のもと「専門職として認知症の人とご家族のニーズに寄り添う支援を行うために」をテーマとして17グループで行いましたが、どのテーブルも熱心に話し合わせ、認知症に対する学びを深め、患者さんの話をよく聞き、多職種連携がスムーズにいくことが患者さんやご家族を支えることに繋がるなど発表頂きました。

研修会終了後の交流会でも皆さんグループワークの時と雰囲気も変わり、和気藹々とリラックスムードで話され、顔の見える関係づくりをされていました。



平成25年10月より地域医療再生基金を活用し、県医師会委託事業として実施した在宅医療推進地域支援事業も平成28年3月31日事業期間満了の運びとなり、2年半にわたる本事業は終了となりました。

事業推進にあたり、三師会の先生方、保健所、各市町行政、多職能団体、サービス事業所、民生委員の方々にはご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございました。

本誌『れんけあニュース』は、平成26年1月より各種委員会の検討内容や研修会のご案内を毎月1回約900カ所へお届けさせて頂きました。つたない文章で見苦しい点多々あったことと存じますが、「ファイリングして活用しています」「研修会参加のきっかけになりました」という声を頂いたりすることがとても励みとなり、医師会の活動内容を知って頂くツールの一つとなったのではないかと思います。今回で最終号となりますが、今後の活動は当医師会並びに県医師会のホームページにてご確認頂ければと存じます。

今後、本事業は各行政が取り込まれる地域支援事業へ引き継がれることとなりますが、医師会と致しましても関係職種の方々と連携し、引き続き在宅医療を推進して参りますので今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

在宅医療推進連絡協議会



事業運営委員会



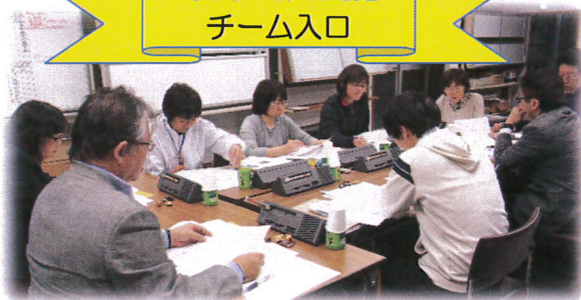
24時間連携体制構築 チーム吉満



入退院時の連携 チーム前田



資源と体制発掘 チーム入口



認知症チーム



本事業推進にあたり、推進連絡協議会の委員をはじめ、事業運営委員会委員、推進チーム作業部会委員の方々等、多くの皆様にご協力賜りました。

皆様の心強いお力添えのもと無事運営できましたことに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

【在宅医療推進連絡協議会事務局】

公益社団法人始良地区医師会事務局内

〒899-5106 鹿児島県霧島市隼人町内山田1-6-62

TEL : 0995-42-7161 / 0995-42-1205 FAX : 0995-43-2044

